

より医学的に喫煙を知ろう！

タバコ煙の成分について・・・2



東北文化学園大学 健康管理センター保健室 2019年 5月発行 Ver. 18



ニコチン依存症は、確実に病気で治療が必要です。専門医のいる禁煙外来を受診するほかに、自分で禁煙するための補助として、薬局で購入可能なニコチンパッチやニコチンガムもあります。大学保健室では、ニコチン依存症のスクリーニングテストを受けることができます。必要に応じて、**お試し用のニコチンパッチも差し上げます**ので、是非相談に来てください。

～タバコは依存症になる製品～

ニコチンは、国際疾病分類（ICD）に定義される依存症候群を引き起こす依存性物質である。ニコチンを含むタバコという製品も、米国精神医学会診断基準（DSM）に記述される物質使用障害（依存と乱用を含む疾患概念）を発症させる嗜好性製品である。

タバコが依存症になるとは、どんな傾向等があるかを下記紹介する。

- a. **ニコチンは**・・・ヘロイン、コカイン、アルコールと同等以上に危険な依存性物質である。
- b. **タバコの依存症の強さは**・・・喫煙というニコチン摂取経路によるところが大きい。
- c. **喫煙で認識する感覚は**・・・ニコチン欠乏症からの回復にすぎないが、それが禁煙の困難さである。
- d. **低ニコチン・低タールのタバコは**・・・むしろ健康被害を増大させる可能性がある。 etc・・・



禁煙相談希望の方は1号館2階 大学保健室に来てくださいね。